

Bun voya!

越前市文化センターだより

Vol.4 2019. Autumn

文化センターの「つぶやき」ならぬ「ぼやき」で文化センターへの旅を…

あなたに聞きたい!



おやま ゆづる は
小山弓弦葉さん

今回は子どもの頃に越前市で過ごされ、現在東京国立博物館の研究員をされている小山弓弦葉(おやまゆづるは)さんに寄稿して頂きました。

「トールハク」をご存知ですか?東京国立博物館の略称「東博」のことです。私は、トールハクの研究員として一八年前に就職しました。研究員というからには、研究をするのが仕事です。私は「染織」つまり、織物や染物、刺繍などの歴史的、文化的な研究をしています。

トールハクは、「挂甲の埴輪」を代表とする考古古の発掘品、長谷川等伯筆「松林図屏風」や尾形光琳筆の「風神雷神図屏風」といった屏風の名品を所蔵することで知られています。飛鳥時代から続く漆工や金工、陶磁などの工芸品も数多く所蔵されています。染織は糸を用いて製作される工芸品の一つです。私は、トールハクに所蔵されている三〇〇〇件あまりの染織を調査してデータを整理し、それらの作品の特徴を分析して、いつの時代に製作されたものなのか、どのような技法が用いられているのか、色や模様が何を意味しているのか、といったことを研究しています。研究した成果を論文や展覧会などで発表し、皆様に知ってもらうことが私の仕事です。学芸員、キュレーター、とも呼ばれる仕事ですが、トールハクでは「研究員」と言われています。

今はこの仕事を天職と信じて携わっていますが、子供の頃は、そんな仕事があることすら知りませんでした。ただ、両親が歴史や美術が好きで、幼い頃から奈良の古いお寺や博物館や美術館に連れて行ってもらった記憶があります。ですから、仏像や美術品といった文化財には慣れ親しんでいました。でも、

幼稚園の頃から、私のやりたいことは「舞台に立つこと」でした。国高小学校にいた時から、自分で脚本を書いて、クラスの学芸会で芝居を披露していました。残念なことに武生第三中学校には演劇部がなかったため、声を鍛えるために合唱部に、武生高校で、念願の演劇部に入りました。高校二年生の時、高校演劇の大会が福井県で開催されて、他府県の高校の演劇をみる機会がありました。その時、大阪のある高校が、東京で大人気だった「第三舞台」という劇団の芝居をコピーして、カルチャー・ショックを受けたことを憶えています。スピード感やアップテンポ、ストーリーや場面展開の複雑さ、言葉遊びの掛け合いなど、美内すずえのコミック『ガラスの仮面』で刷り込まれていた舞台演劇の概念を覆す出会いでした。東京で流行っている小演劇のようなお芝居がしたくて、東京の大学を目指しました。

大学生の最初の三年間は念願の小演劇をやる劇団サークルに入り、毎日演劇に明け暮れる毎日でしたが、大学の同級生たちが就職活動を始めようになり、ふと、演劇では自立して生活することは難しい、ということに気づきました。大学を出て演劇をしている人は、生活費を稼ぐ為に舞台とは別にアルバイトをしているのが普通でした。でも私は、生涯をかけてしたい事と生活のための仕事が違うのは嫌だと思ってしまいました。たまたま、大学で学芸員の資格を取得するために学んだ博物館学の授業や、博物館での実習が気に入って、博物館にある古いものを研究する仕事だったら自分に合っているかもと思い、博物館の学芸員を目指すことにしたのです。

ところが、実際には、学芸員として博物館で勤めることも、かなり難しいのです。学芸員の資格を取得しても、学芸員の募集というのは、大きな博物館でも数年に一回という程度です。そこで、文化財に近い仕事をして経験を積んだ方が良さだろうと思い、朝倉遺跡にある埋蔵文化財センターでアルバイトをしながら、博物館施設の多い大阪府庁や奈良県庁、神戸市役所の人事の方にお会いして履歴書を渡し、学芸員の募集があったら知らせしてほしい、とお願いして歩きました。いわゆる就職活動ですが、若いからこそできたこ

とですね!今から思えば無謀なことです。それにも関わらず、その年の二月の初めに、奈良県庁の人事の方から、奈良県立美術館で学芸員の募集があるから就職試験を受けないか、という連絡が入ったのです!私のことを覚えていてくれた人事の方に、本当に感謝の気持ちでいっぱいでした。西洋美術史の学芸員を募集していたので、試験までの一か月あまりの間に、西洋美術史の勉強を必死でやりました。試験は地方公務員の専門試験、西洋美術史の小論文、面接の三つでした。西洋美術史の小論文の内容は、三点のヨーロッパ絵画の画像が配られて、その内の一つについて論じなさい、という内容でした。その一つが、なんと私が一週間前に本で読んで憶えていたギリシャ出身の画家、エル・グレコの「オルガス伯の埋葬」という宗教画だったのです。まさに「山が当たった!」という瞬間でした。大学では専門的な勉強をしておかなかった西洋美術史の試験だったのに、結果的に、奈良県立美術館の学芸員として採用されることになりました。

奈良県立美術館に入ってから、私の運命を変える、もう一つの出会いがありました。西洋美術史の試験で入った私は、当然のことながら、西洋美術史の研究をするものと思っていました。ところが、私が告げられたことは、奈良県立美術館には風俗研究家の吉川観方が蒐集した日本の染織文化財がたくさん収蔵されている、前任者の後を引き継いで、染織史を担当して欲しい、という御達しでした!そこで私は、染織史の勉強をゼロからスタートすることとなったのです。

奈良県立美術館では、所蔵作品を一つ一つ調査して、細かい調査を取ることからはじめました。選択の余地なく始めた染織の研究でしたが、日本の刺繍や染物の素晴らしい技術や、美しい模様に出会え、その意味を知ることが新鮮な喜びでした。江戸時代女性の着物や、宮廷貴族の装束などがたくさんあって、時代劇の衣装を見ているようで楽しかったのです。コレクターの吉川観方さんも、大正から昭和の始めに流行した松竹映画の時代劇考証をするため

に、日本の古美術を蒐集し始めた経緯があります。

染織史を研究する学芸員としてスタートすることになって、もともと専門的に研究のノウハウを学びたい、と思うようになりました。染織は繊維でできています。ですから、金属や陶磁器など、ほかの工芸品と比較してみると、傷みやすくて、残りにくい、という面もあります。展示をすることで、褪色もします。でも、残りにくいからこそ、今、残っている作品をしつかりと調査し、記録を残し、残っている間に研究をしつかりとやっていくことが大切です。大学に入り直したい、という思いもありましたが、今、仕事を辞めたいと、今度いつ、就職できるかわからない、という不安もありました。そこで、仕事をしながら大学院に通うという道を私は選びました。仕事と勉強を掛け持ちすることはなかなか大変でしたが、若かったのか(?)乗り切りました。東京の大学院に奈良から夜行バスで通っている時期に、偶然にも東京国立博物館の染織の研究員の募集が出ました。大学院に通い続けるには、東京で仕事をする方が助かると思いい、トラバユすることにしました。

周りの皆さんのご協力やご理解もあって、子育てをしながら博士論文も書き上げることができました。今は、来年度の四月一日から開催される特別展「きものKIMONO」展の準備のために、全国各地から作品をお借りするための出品交渉をしたり、どのように展示をするかという企画を立てたり、きものに親しんでもらうための様々なイベントを計画したり、多忙な日々を送っています。稀少な国宝や重要文化財の染織がたくさん出品され、鎌倉時代から現代に至るまでのきものファッション史を紹介する、これまで開催されたことのない大規模な「きもの」展覧会です。今のファッションの流行と同じように、桃山時代や江戸時代にも、きものデザインや着方に流行があったことがわかります。ぜひ、皆さんも、連休には東京に旅行して、東京国立博物館に遊びにいらしてください!



宝くじふるさとワクワク劇場 in 越前

第1部お笑いオンステージ 第2部ほのぼのコメディ劇場

日 時: 令和2年3月15日(日)14時開演
 会 場: 越前市文化センター 大ホール
 出 演: 桂米助、オール阪神・巨人、大木こだまひびき
 ルート33、5GAP、U字工事
 吉本新喜劇メンバー(チャーリー浜ほか)
 入場料: 2,000円(全席指定席)
 ※宝くじの助成による特別料金です。
 チケット発売日: 令和2年1月18日(土)



桂米助



オール阪神・巨人



大木こだまひびき

吉本新喜劇と共演のチャンス!!

「宝くじふるさとワクワク劇場 ほのぼのコメディ劇場」 地元出演者オーディション!

令和2年3月15日(日)に越前市文化センター大ホールで開催される「宝くじふるさとワクワク劇場 第2部ほのぼのコメディ劇場」の出演者を募集します。年齢、経験、性別等は一切問いません。吉本新喜劇のメンバーと同じ舞台に立てるチャンス!

皆様のご応募お待ちしております!

オーディション日程: 令和2年2月23日(日・祝) オーディション会場: 越前市文化センター

応募締切: 令和2年2月14日(金)(必着)

ハガキ・メール・FAXにて住所、氏名(フリガナ)、性別、年齢、電話番号を明記して、下記まで
 ご応募ください。

〒915-0832 越前市高瀬2丁目3-3 越前市文化センター「宝くじオーディション」係

Eメール tbc@mitene.or.jp

FAX 0778-21-1975

※ 応募の際に提供頂いた個人情報は、本イベントに伴う諸連絡以外に使用することはありません。



越前市文化センタージュニア合唱団

このとり日記 令和元年11月



一緒にうたおさ〜♪

楽しいよ!

いっしょに歌おう!



♪今後の出演予定♪

大切なものが
好きです。

Believeが好き
です。

ソノレウインドアンサンブル第15回冬の音楽会

日時: 12月22日(日) 14:00~

会場: 越前市文化センター 大ホール

入場無料です♪ぜひみなさま来てください!!

令和2年度 越の都ホール友の会会員を募集します

募集期間: 令和元年12月中旬~

会員期間: 令和2年4月1日~令和3年3月31日

年会費: 1,000円(更新手続きが必要です!!)

< 会 員 特 典 >

- ♪越前市文化センター及び越前市いまだて芸術館が主催する公演のチケットを一般発売前に予約することができます。
- ♪両館が主催する公演のチケットを割引します。
(1公演につき2枚まで。割引額は公演により異なります。)
- ♪両館主催の公演のご案内をいたします。
- ♪お越し頂いた公演数によってプレゼントがあります。



令和2年度(公社)全国公立文化施設協会主催 西コース 製作 松竹

松竹大歌舞伎

開催決定!!

日時: 令和2年4月8日(水)14時開演

会場: 越前市文化センター 大ホール

入場料: 一般7,500円 友の会7,000円

出演: 片岡仁左衛門ほか

演目: 正札附根元草摺(しょうふだつきこんげんくさずり)

義経千本桜(よしつねせんぼんざくら)

発売日: 友の会先行 令和2年1月13日(月・祝)~

一般発売 令和2年1月19日(日)~

※上記友の会先行販売は令和2年度越の都ホール友の会
 会員様が対象となります。

※越前市文化センター事業の案内は、ホームページに掲載しています。

<http://www.jigyodan-city-echizen.jp/bunka>

<発行・編集> 2019年11月 越前市文化センター 越前市高瀬2丁目3-3 TEL: 0778-23-5057 FAX: 0778-21-1975

Bunvoya!は越前和紙を使用しています